

2019年度事業報告

2019/11/1

一般財団法人 エコロジカル・デモクラシー財団

**ECOLOGICAL
DEMOCRACY
FOUNDATION**



目次

- (1) 2019年度の事業枠組み・・・・・・・・・・ p.3
- (2) 実施体制・・・・・・・・・・ p.5
- (3) 2019年度事業内容と予算計画・・・・・・・・ p.6
- (4) 2019年度事業別の収支計画と実績・・・・ p.8
- (5) 各活動の振り返りと次年度に向けて・・・・ p.10

(1) 2019年度の事業枠組み

財団の全体像およびゴールへの事業位置付けの整理

▶ ビジョンの具体化、対象の明確化 (10事業→4事業へ整理)

今後の全体像・ゴールイメージ

エコデモ財団のミッション

一人ひとりが、人間は自然の一部であることと人間だけが培ってきた信念（自由、平等、平和）を誇りに思い、自然、生態系（エコロジー）を労り畏れながら、人々の協同（デモクラシー）を尊重する世界を目指す。

エコデモ財団のビジョン

2020年までに、社会（企業、行政、市民活動、学術それぞれの領域）におけるエコロジカル・デモクラシーのグッドプラクティスを創る。

ビジョンのための戦略

<行政>

都市・地域のビジョンとそのデザインをエコデモにより深める

<企業>

企業活動(CSV)の中に新しいエコデモという価値を創造する

<市民>

市民活動にあるエコデモの価値を見出し、エコデモの価値を認めてもらう

<学術>

多分野におけるエコデモ研究を深める

これまでの全体像・ゴールイメージ

エコデモ財団の目的

一人ひとりが、人間は自然の一部であることと人間だけが培ってきた信念（自由、平等、平和）を誇りに思い、自然、生態系（エコロジー）を労り畏れながら、人々の協同（デモクラシー）を尊重する世界を目指す。

エコデモ財団のゴール

- ・ 自然を直すことと社会を治すことを、意識的に連動させる。
- ・ 自然と社会をつなぐのが、一人ひとりの人間であることを伝える。
- ・ エコロジカル・デモクラシーが日常生活から国際政治まで実践される

エコデモ財団の採るゴールへのステップ

- ① そこここにあるエコロジカル・デモクラシーの事例を発見し、観測する。
- ② 連動している自然と社会の要素・領域を評価し、指標化する。
- ③ エコロジカル・デモクラシーの指標に基づき、問題の設定、政策やデザインを提案する
- ④ エコロジカル・デモクラシーを理解し、実践し、伝えるエコデモ戦士を育てる。
- ⑤ エコロジカル・デモクラシーの価値を、社会全体で共有する。

←
・ 変更なし
(定款より)

←
・ 期限の設定
・ 具体化

←
・ 対象の明確化
・ 中期方針の設定
・ 中期目標の設定

(1) 2019年度の事業枠組み

財団の全体像およびゴールへの事業位置付けの整理

▶事業の集約と整理：4つの枠組み（行政、企業、市民、学術）で整理・組み直す

今後のゴールへの事業位置付け

中期目標(3年) 2018/10—2021/09

<行政>

コミュニティ・都市・地域のスケールを行き来できる、まちのビジョンをつくる

<企業>

SDGs、ESG投資の潮流を捉えた企業活動(CSV)の価値をつくる

<市民>

そこそこにあるエコデモの実践を実証し、総体的な価値をつくる。

<学術>

エコデモの国際的な潮流を捉え、国内における学術的位置づけを多分野との共同で行う

A) エコデモ計画コンサル

B) エコデモ CSV (Creating shared value)

C) エコデモ認証プロジェクト

D) エコデモセミナー

エコデモ未来図

①エコデモ観測プロジェクト(エコデモシート)

②エコデモ指標・評価(エコデモシートの評価)

④パイロット

⑤認証PJ

③セミナー

⑧出版事業

⑨勉強会

⑨勉強会

⑨勉強会

⑥エコデモ宣伝プロジェクト

⑦名刺PJ

⑩絵本

・ 10事業との対応関係

これまでのゴールへの事業位置付け

ゴールへの財団事業の位置づけ (GoalへのStory)

1. エコデモ発見・観測

- ①エコデモ観測プロジェクト
- ②エコデモ指標・評価方法確定事業

2. エコデモ普及・定着

- ③エコデモセミナー
- ④エコデモ・パイロット事業
- ⑤エコデモ認証プロジェクト

3. エコデモ啓発・宣伝

- ⑥エコデモ宣伝プロジェクト
- ⑦エコデモ名刺プロジェクト
- ⑧Design for Ecological Democracy 翻訳本出版事業
- ⑨エコデモ勉強会
- ⑩エコデモ絵本プロジェクト

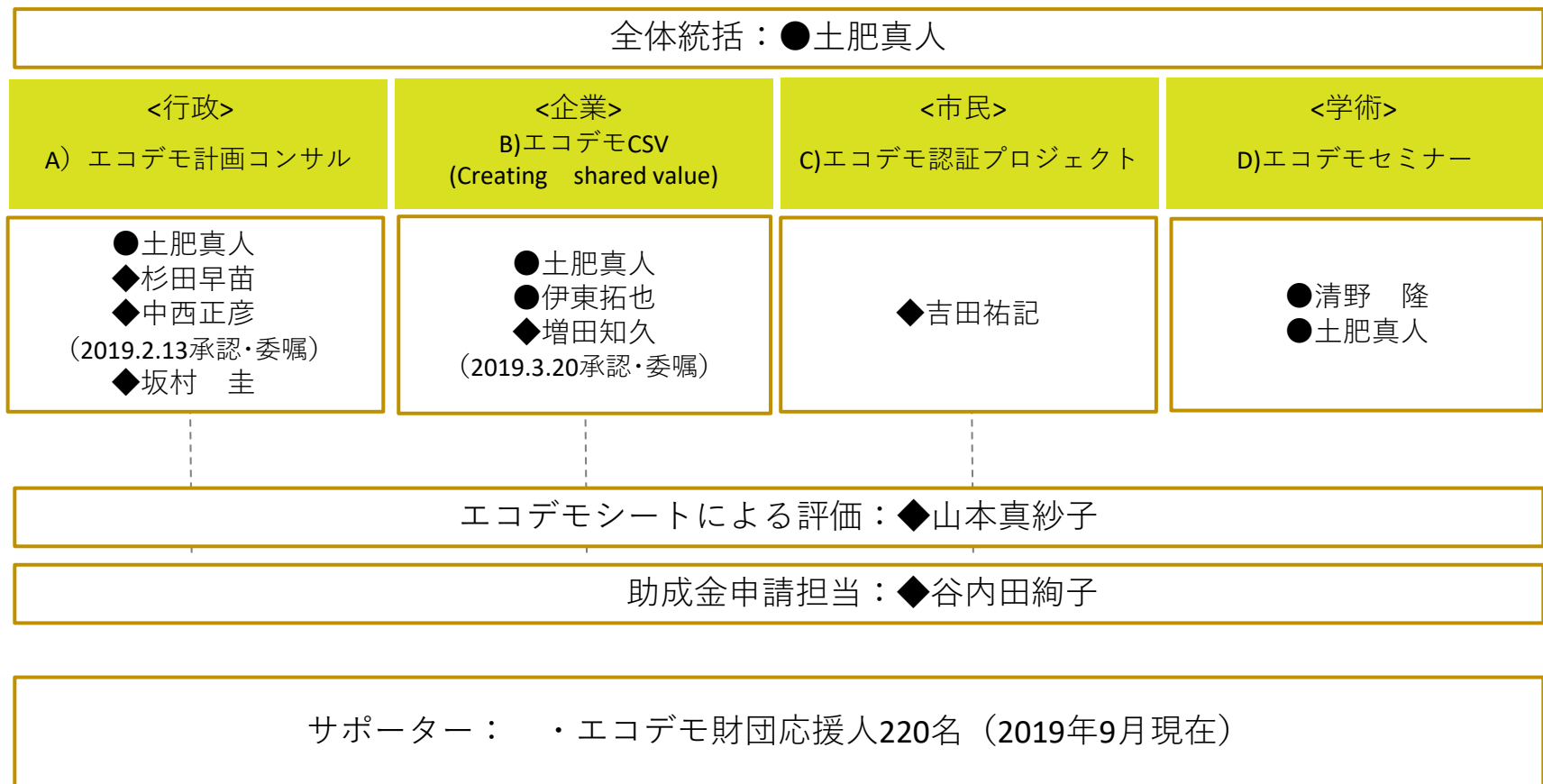
・ 事業の集約と整理
・ 重点事業の設定

・ ペンディング事業

(2) 実施体制

実施体制

●エコデモ財団理事、◆事務局・アドバイザー (敬称略)



(3) 2019年度の事業内容

●4事業の成果目標と実施内容

| 事業枠組 | 事業項目 | 今年度の成果目標 | 実施内容 | 昨年度までの実績 |
|------------------------------|----------------------------|---|---|--|
| A)エコデモ 計画 コンサル 【行政】 | A① エコデモ プライマー | ・エコデモプライマーの作成 およびコンサルとの実務検証 | ・プライマー作成の実務者会議 ・コンサル向けの勉強会 | ・福岡大学景観まちづくり 研究室特別セミナー (CPD認定プログラム _7/13) |
| | A② エコデモ コンサル | ・コンサル業務としてまちのビ ジョンづくり | ・行政からコンサル業務を受託し、まちのビ ジョンづくり | ・大田区まちづくり専門 家登録_7/3 |
| B)エコデモ CSV 【企業】 | B① CSV試験プロ ジェクト | ・企業とのCSV試験プロジェクト の検討と実施 | ・CSV試験プロジェクトの企業との検討および 実施 | ・なし |
| C)エコデモ 認証 【市民】 | C① エコデモ 認証プロ ジェクト | ・エコデモの相互認証システムの 確立と普及 ・認証グループの交流会 | ・認証基準、相互認証のシステムの確立 ・パンフレットの作成・広報 ・まちづくり活動グループとの認証取り付け ・認証グループ間の交流会 | ・世田谷まちづくりファ ンド活動助成_201706- 2018-03 |
| D)エコデモ セミナー 【学術】 | D① エコデモ セミナー | ・エコデモセミナーの継続 | ・エコデモセミナー4期 (10-1月) ・エコデモセミナー5期 (4-9月) | ・第2期：8/16名修了 ・第3期：7/13名修了 |
| | D② エコデモ 出版事業 | ・エコデモ関連書籍の出版 | ・日本版エコデモの出版 | ・「エコロジカル・デモ クラシー」(鹿島出版会)、 BIOCITY # 74特集号) |
| | D③ エコデモ シンポ | ・エコデモ財団シンポジウム | ・エコデモ財団シンポジウム (3周年記念の交流会として開催) | ・なし |

(3) 2019年度の予算計画

(単位:千円)

| 2019年度 予算 | 事業名 | A:エコデモ計画コンサル | | | B:エコデモ CSV① | C:エコデモ 認証① | D:エコデモセミナー | | | 管理費 | 総計 | | |
|--------------|------|--------------|-------------|-------|----------------|---------------|------------|-------|----------------|-------|-------|--------|--------|
| | | ①プライマー 作成 | ②コンサル 業務 | 合計 | | | ①セミナー | ②出版事業 | ③学術交流 (シンポ) | | | 合計 | |
| 損益 | 収益 | 助成金 | 0 | 5,400 | 5,400 | 0 | 1,200 | 0 | 180 | 0 | 180 | - | 6,780 |
| | | 事業収益 | 750 | 500 | 1,250 | 0 | 0 | 975 | 324 | 600 | 1,899 | - | 3,149 |
| | | 寄付金 | 0 | 0 | 0 | 200 | 0(500) | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 200 |
| | | 計 | 750 | 5,900 | 6,650 | 200 | 1,200 | 975 | 504 | 600 | 2,079 | 0 | 10,129 |
| 支出 | 事業費計 | 580 | 3,980 | 4,560 | 200 | 1,220 | 80 | 416 | 500 | 996 | 150 | 7,126 | |
| | 委託費 | 120 | 1,740 | 1,860 | 120 | 480 | 0 | 0 | 0 | 0 | 560 | 3,020 | |
| | 計 | 700 | 5,720 | 6,420 | 320 | 1,700 | 80 | 416 | 500 | 996 | 710 | 10,146 | |
| 収益-支出 | | 50 | 180 | 230 | -120 | -500 | 895 | 88 | 100 | 1,083 | -710 | -17 | |

<事業収益>

A①②:エコデモ計画コンサル 1,250千円

①プライマー作成750千円:

- ・勉強会の収益300千円(参加費2,000円, 50名, 100千円/回, 3回/年)
- ・エコデモ財団と協働した研究助成からの委託450千円
※鹿島研究助成1,500千円/1年*0.3(事業委託の割合)=450千円

②コンサルタント収益500千円

※250千円/件を目標

D①③:エコデモセミナー 1,899千円

①セミナー収益975千円 (@65千円*15名・5期分)

②エコデモ本/BIOCITYの売上収益324千円:勉強会、セミナー、シンポジウムにて販売 ※エコデモ50冊、価格5940(原価4752)、BIOCITY10冊、価格2700(原価1890)

③シンポ収益600千円(全1回、資料代参加費2,000円、300名)

<助成金の申請一覧>

A②:コンサル事業 申請総額18,000千円/年*0.3(期待値) = 5,400千円

- 1)トヨタ国内活動助成(6,000千円/2年)
- 2)三井物産活動助成(3,000千円/年※案件の総支出額の80%)
- 3)積水ハウスマッチングPG(2,000千円/1年)
- 4)三菱財団研究助成(5,000千円/1年)
- 5)ニッセイ財団研究助成(10,000千円/2年)

C①:エコデモ認証プロジェクト 申請総額4,000千円/年*0.3(期待値) = 1,200千円

- 1)地球環境基金プラットフォーム助成(8,000千円/3年)
- 2)とうきゅう環境財団(1,000千円/1年)

D②:出版事業 申請総額600千円*0.3(期待値) = 180千円

- 1)住宅総合研究財団出版助成(600千円/件)

<寄付金> B①:エコデモCSV 200千円

※CSV試験プロジェクト実施による企業寄付金 200千円(100千円/1件*2件)

C①:エコデモ認証プロジェクト 500千円

※個人寄付金の1,000千円(前年度収入)を運用する。今年度500千円、翌年度500千円を予算を立てて使用する。

(4) 2019年度 事業別の収入計画と実績

決算書内の項目との対応 (p3-4、7-9)

- 推進寄与連携事業 : A) エコデモコンサル
- 実践事業 : B) エコデモCSV
- 発見普及啓発事業 : C) エコデモ認証
- 出版事業 : D) エコデモセミナー
- 学術研究事業 : 助成金 (東急財団)
- その他 : 3周年イベント (会当日の寄付 : 雑収入)

(5)各活動の振り返り：エコデモコンサル

ビジョンのための戦略

コミュニティ・都市・地域のスケールを行き来できる、まちのビジョンをつくる

前年度を踏まえての来年度の方針

事業委託は2020年度まで継続の可能性あり。今年度の前期は、大岡山まちづくり協議会との実践と成果取りまとめに注力し、後期は、これら実践の成果をもとに、エコデモプライマーの作成に取り組む。

A①エコデモプライマー

| | | | |
|-----------------|--|-----------------|---|
| 前年度の成果目標 | ・エコデモプライマーの作成 およびコンサルとの実務検証 | 今年度の成果目標 | ・後期より下記、大岡山での実践を踏まえたプライマーの作成 |
| 実施内容振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・プライマー作成の実務者会議 →プライマーづくりは一時中断（4月～）。プライマーのアウトラインと突き合わせながら、（大岡山等の）実践を進める。 ・コンサル向けの勉強会 →一時中断に伴って開催を見送り | 今年度の計画 | <p>A①：エコデモプライマーの作成 年度後期より、大岡山での実践を踏まえたプライマーの作成を行う。併せて、プライマー作成の研究助成を申請し、計画づくりを行う。</p> <p>助成金収入 1,500千円 （三井物産研究助成8-10月）</p> |

A②エコデモコンサル

| | | | |
|-----------------|--|-----------------|---|
| 前年度の成果目標 | ・コンサル業務としてまちのビジョンづくり | 今年度の成果目標 | ・大岡山でのエコデモの実践 |
| 実施内容振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・行政からコンサル業務を受託し、まちのビジョンづくり →大岡山まちづくり協議会等のコンサル業務の受託（4月）。今年度から本格的にプロジェクトを開始した。 | 今年度の計画 | <p>A②：エコデモコンサル業務を行政から受託（2件） 大岡山まちづくり協議会との委託事業の収入見込み。 （事業収入450千円。2019-2020年度の2年間の予定。）</p> <p>助成金 1,800千円 →大岡山での実践をテーマに助成金を申請。 （TOTO水環境基金8-10月、トヨタ財団8-9月）</p> |

(5)各活動の振り返り：エコデモCSV

ビジョンのための戦略

SDGs、ESG投資の潮流を捉えた企業活動（CSV）の価値をつくる

前年度を踏まえての来年度の方針

CSV事業は財団全体の収益の根幹となる。周りの事業を充実させることでCSV事業が成り立つ。来年度は、事務所費、人件費、事業費、管理運営費を見込みながら、プロジェクトの実施を検討する。

B①CSV試験プロジェクト

| | | | |
|------------------------|---|------------------------|---|
| <p>前年度の成果目標</p> | <p>・企業とのCSV試験プロジェクトの検討と実施</p> | <p>今年度の成果目標</p> | <p>SDGs、ESG投資の潮流を捉えた企業活動(CSV)の価値をつくる</p> |
| <p>実施内容振り返り</p> | <p>・CSV試験プロジェクトの企業との検討および実施 →CSV事業の企画書を作成。企業者と共にCSV事業企画の検討を行った。また1社の企業訪問を行った。</p> | <p>今年度の計画</p> | <p>B①：企業とのCSV試験プロジェクトの検討と実施（1-2件） 事業収益 2,500千円 →1,000千円（川越エリア）、1,500千円（東京エリア）のCSV試験プロジェクト実施を検討する 事業費 1,700千円 →委託費は200千円（川越エリア）、550千円（東京エリア）の総計750千円。事務所費などのランニングコストとして事業費750千円、実際の事業費は200千円として計上。</p> |

(5)各活動の振り返り：エコデモ認証プロジェクト

ビジョンのための戦略

市民活動にあるエコデモの価値を見出し、エコデモの価値を認めてもらう

前年度を踏まえての来年度の方針

認証プロジェクトは、2019年度までに、1件以上の認証取り付け、および認証のシステムづくりを完了させること。2020年度は、東急財団の研究助成の一環として、水辺の楽校のグループとの認証を行い、次いで、世田谷ほか全国各地のまちづくりグループとの認証を進めていく。

C①エコデモ認証プロジェクト

| | | | |
|------------------------|---|------------------------|--|
| <p>前年度の成果目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・エコデモの相互認証システムの確立と普及 ・認証グループの交流会 | <p>今年度の成果目標</p> | <p>市民活動グループ、行政、企業、小中学校等を対象として、①エコデモを認めてもらい、②各活動にあるエコデモをみつけ、③一緒にエコデモと活動の価値の確認する</p> |
| <p>実施内容振り返り</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・認証基準、相互認証のシステムの確立 ・パンプレットの作成・広報 ・まちづくり活動グループとの認証取り付け ・認証グループ間の交流会 →プロジェクトが進まなかった要因を整理、その対処、今後すべきことをまとめる ・水辺の楽校プロジェクトの開始 →2019年度の東急財団助成研究（水辺の楽校プロジェクト）を認証プロジェクトと関連付け、並行して進める。 | <p>今年度の計画</p> | <p>C①：エコデモ認証プロジェクト 助成金：2,300千円 →東急財団の助成金を運用（1,300千円/2年目） →エコデモ認証グループづくりをテーマとした助成金の申請（地球環境基金。12-1月）</p> <p>事業費： →収入が助成金であるため、収入がそのまま事業費となる。</p> <p>まずは水辺の楽校で活動する市民団体を中心として、10グループの認証を目標とする。（前年度では少なくとも1件の認証を目指し、認証システムづくりをおこなうこと。）</p> |

(5)各活動の振り返り：エコデモセミナー

ビジョンのための戦略

エコデモの国際的な潮流を捉え、国内における学術的位置づけを多分野との共同で行う

前年度を踏まえての来年度の方針

セミナー生は時間とお金をかけた財団の大きなリソース。このリソースの活用や展開としてエコデモ・ミニフォーラムを開催する。対象地やアプローチは次の通り
 (1) 地方展開（弘前、金沢、前橋、熊本、岡崎、札幌など...）
 (2) 大学や企業への展開 (3) 「葦前工業会」(全国に支部)、「社工会」への展開

D①エコデモセミナー

| | | | |
|----------|---|----------|---|
| 前年度の成果目標 | ・エコデモセミナーの継続 | 今年度の成果目標 | ・エコデモセミナーの継続 (5期13名、6期10-15名で実施) |
| 実施内容振り返り | ・エコデモセミナーの継続 →4期セミナーの修了（8月～翌2月。修了者9名／参加者12名。）5期セミナーの開始。参加者13名で実施中。 | 今年度の計画 | D①：エコデモセミナー(6期)の継続 事業収益1,000千円 →前年度実績（@65千円×15名）を元に計上 |

D②エコデモ出版事業

| | | | |
|----------|--|----------|---|
| 前年度の成果目標 | ・エコデモ関連書籍の出版 | 今年度の成果目標 | エコデモ関連書籍の出版 |
| 実施内容振り返り | ・ エコデモ関連書籍の出版 ・エコデモ関連の論考・論文：4本→デモクラティック・デザイン・パンフィック会議（12月）、JUDI通信10号（12月、都市環境デザイン会議）、都市計画336号（1月、日本都市計画学会）、ランドスケープ研究Vol82 No1(4月、日本造園学会) | 今年度の計画 | D②：日本版エコデモ出版 助成金600千円 →日本版エコデモの出版助成（住総研）600千円 事業費600千円 →日本版エコデモの出版経費600千円 |

D③エコデモシンポ

| | | | |
|----------|---|----------|---------------------------|
| 前年度の成果目標 | ・エコデモ財団シンポジウム | 今年度の成果目標 | ・エコデモフォーラムの実施 |
| 実施内容振り返り | ・エコデモ財団シンポジウム →エコデモ財団3周年イベントとして、7/28に実施予定。 | 今年度の計画 | D③：エコデモ学術交流（フォーラム3回＋講演会等） |

(5)各活動の振り返り：講演会・イベント

講演会・イベント

- 第10回 デモクラティック・デザイン・パシフィックリム会議 (2018.12)
- 世田谷みどり33 グリーンインフラ・シンポジウム (2019.2)
- 金沢大学「エコロジカル・デモクラシーと観光」 (2019.2)
- 河北潟湖沼研究所「森下川流域の自然と人とのつながりを考えよう」ワークショップ (2019.2)
- 大岡山まちづくり協議会「エコロジカル・デモクラシーを考える」 (2019.3)
- 東北工業大学「エコロジカル・デモクラシーとは何か：仙台」 (2019.3)
- 横浜国立大学Y-GSA公開レクチャーシリーズ「建築の人類学1」「人の心に触れる街を創る エコロジカル・デモクラシーの都市デザイン」 (2019.6)
- 九州産業大学景観研究センター・景観セミナー/レクチャーシリーズ「なぜ・いま・日本で、エコデモなのか」 (2019.7)
- 早稲田まちづくりシンポジウム2019・アーバニズムの現在と未来「公正と共生:都市のあたりまえ」 (2019.7)

(5)各活動の振り返り：原稿・論文、助成金

原稿・論文

- 「都市をデザインする－まちが人々の心に触れるようにしなさい」
都市環境デザイン会議『JUDI通信』10号、2019年
- 「エコロジカル・デモクラシーと多文化共生－自然と社会の交流が生み出す、多様な文化と都市の統合」 土肥真人、日本都市計画学会『都市計画 特集:多国籍・多文化共住の都市づくり』
Vol.68(1), pp60-63, 2019年
- 「エコロジカル・デモクラシーとSDGs とDegrowthの風景：まちが人の心に触れるようにデザインする」 土肥真人、日本造園学会誌『ランドスケープ研究』 Vol.83(1),pp12-15, 2019年

助成金

- 「水の循環と子どもの遊びからみる自然と社会とのつながりとその価値について－多摩川流域の自然環境保全に向けた流域連携の可能性に向けて」 2019年4月～2021年3月、2年間、2019年度東急財団研究助成